# 終戦から80年――

## 戦争の記憶 どう継承するか

8月20日、山本地域拠点センターにおいて三種町戦没者追悼式が行われました。式典には町遺族会員ら関係者約30人が出席し、戦没者へ追悼の意を表しました。

昭和20年（1945年）8月15日に終戦してから、今年で80年と節目の年を迎えます。式典では遺族の代表から、戦没者の回想と平和への祈りが語られました。

### 遺族会会長の想い

戦没者追悼式に先立ち、町遺族会の河村隆夫会長（83）からお話しを伺いました。

河村さんの父・常二郎さんは、二度にわたる徴兵の末、旧満州国で戦死されました。

父の思い出として河村さんは、昭和20年春、二度目の出征の日のことを話しました。父は家の大黒柱にしがみついて大泣きし、それを見て河村さんは、父を弱い人間と思いました。しかし今ではそのことを「謝りたい」と話します。

母の話では、一度目の徴兵の際、日本兵が満州の人たちを強制労働させる実情を目の当たりにしました。そんな中、上官から銃殺を命じられますが、どうしても引き金を引くことができず、ひどい懲罰を受けたそうです。

最後に見た父の姿を浮かべながら、河村さんは「当時の戦況を踏まえると、父は戦争に負けるのがわかっていて、どうせ死ぬのなら最後まで家族を守りたかったのではないか」と話しました。

▲町遺族会の河村隆夫さん

「戦争は勝っても負けても、何もいいことをもたらさない」父の遺影とともに、河村さんの平和への祈りが語られました。

### 平和への祈り 次世代への継承

遺族や当時を知る方がたの高齢化が進む中、戦争の記憶をどのように継承するかが課題です。

町遺族会でも、会員数の減少が深刻化しています。令和3年は170人でしたが、現在は100人程度まで減少しています。

県遺族連合会では「孫世代」による青年部を結成するなど、次世代への継承に取り組んでいます。

そのうえで町遺族会の河村会長は「遺族の関係者だけでなく、興味・関心のある方からも追悼式に出席してもらい、平和への想いをつないでほしい」と話しました。